授業科目　連携総合ゼミ

【担当教員名】	対象学年	4	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健栄・スポ・社会・看護・情報
松井　由美子　他	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	30

【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】

QOL サポーターとしての専門職への円滑な導入を図るために、異なる学科の学生とお互いの専門性・志向性を考慮しながら連携・協働し、対象者の真のニーズを把握して支援策を企画・立案することが目的である。

対象者の QOL を支えるためには異なる専門職との密接な連携が必要であることを理解するとともに、地域における社会資源や専門職、及び専門機関（医療、福祉、保健など）のネットワークの重要性を理解し、将来の実践の基礎的能力・態度を身につける。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．対象（者）への評価を実施できる。
2．他職種の専門性、志向性に基づいた評価と自らのそれらの差異を識別できる。
3．対象（者）の評価・アセスメントの結果を説明できる。
4．他学科の学生と検討して対象（者）のニーズを抽出できる。
5．検討結果に基づき、協働して対象（者）へのアプローチを企画できる。
6．対象（者）のニーズに対する他職種のアプローチの特徴と自らのそれとの差を指摘できる。
7．支援計画に対象（者）の意見を反映させることの重要性を説明できる。
8．他学科の学生と検討した支援策を効果的に発表できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション、ゼミの進行及び各職種の評価方法例示	1,2	講義、演習：各テーマ担当教員
2	対象・事例の紹介、評価計画の立案、評価の実施	2,3	演習：各テーマ担当教員
3	評価の実施	1,2,3	同上
4	同上	1,2,3	同上
5	同上	1,2,3	同上
6	評価結果のまとめ（専攻毎）	3	同上
7	同上	3	同上
8	対象（者）のニーズの抽出、アプローチの検討	4,5,7	同上
9	同上	4,5,7	同上
10	他学科の学生との検討	5,6,7	同上
11	同上	5,6,7	同上
12	発表準備	6,7,8	同上
13	同上	6,7,8	同上
14	発表会	8	同上
15	同上	8	同上

【使用図書】	＜書名＞　＜著者名＞　＜発行所＞　＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	特に指定しない
参考書	特に指定しない
その他の資料	実際の対象（者）、ビデオ、DVD、PC コンテンツ、事例のシナリオなど、必要に応じて提示・配布する．

【評価方法】

出席、参加態度、評価内容、討論内容、発表内容、発表技術を総合して評価する。

【履修上の留意点】

1．集中講義として開講されるので、他の科目との履修調整に留意する。
2．授業の大半がグループワークなので、欠席は慎むこと。
3．グループにより事前学習・ミーティングを実施する場合があるので、事前連絡に留意すること。